

徳義通記

十七十八

姫

戦記

内閣文庫		
五	三	和
一	三	書
函	三	
七	三	
架	冊	
	號	
	九	
	三	
	七	
	四	
	三	

(二十市)

内閣文庫		
番號	和	34709
冊數		33 ( 12 )
函號		151 60

第七

共卅三



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





盛衰通紀卷第十七

目錄

徳川竹久忠信之服付 後登城軍

并 元信忠是時以攻城之軍

三河中務軍松平大炊助討死 并 春浪殿合戦之軍

尾州急務村合戦之軍

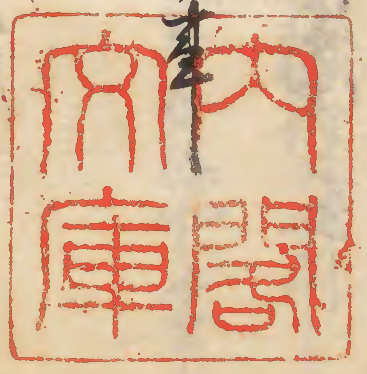
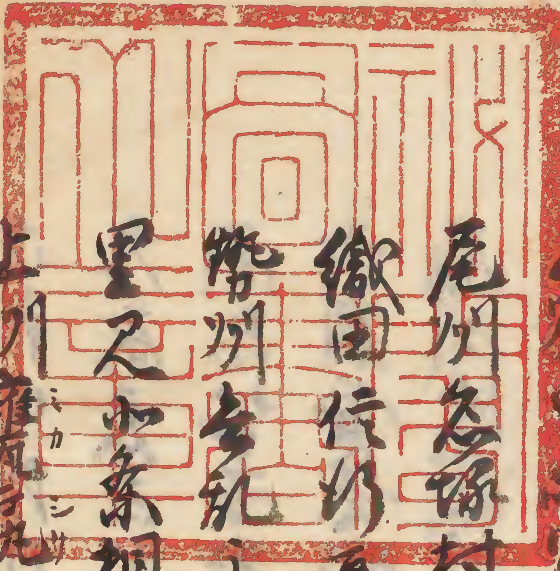
織田行功再謀叛之軍 并 赤松之左衛門之軍

幣州合戦之軍

里尺小糸相次之浦合戦 并 赤虎泥田出陣之軍

上州齋尾合戦之軍

武田上杉川中合戦之軍





京虎卒并左殿所之殿責之事

西親町院御即位之事

元康君三別殿之軍并松平位一事

園東公方貴氏為園社各一事

六角貴利發之事

尾州浮城川合戰并道後与后友軒秀口論之事

黃輝將軍以別打本流攻之事

當貴利別津樂屋城事

光隆因海老沼山王堂軍之事

本下友在希秀在出世之事

位長河橋并梅家失并事

德川元康君御嫡子之帝位康君以誕生之事

德川以別證勳之事

京虎御中合戰并位玄死深軍之事

坂中之島合戰并位玄責上別善瑞城事

大垣城并海井与蒲生喧嘩之事

京虎上洛并公方晴氏逝去并京氏康隱在之事

為隆出合戰并下総柳橋軍并德川之奇子始事

上







理好友ハ賢人の姉婿國江刑部親永格のりハ賢人より

澤のまこととて

徳川治部三郎元信君とて

元信君と改めたり

柳宗七郎といふ者嵐麻毛といふ名と

元信君ハ

元信君の代りて三洲日近城と奥平之衆

貞教と責むとてを信平といふ春ハ

元信君の叔父極井城といはれ信定ハ中ノ子息とい

ふ忠といふは城攻メ善春ハ討死ハ

三洲海谷ハ

三洲中將軍松平大次郎討死ハ

若原暇合戦ハ

三洲東条城を在良ハ

河守善兵衛ハ

信長とて

三洲中將軍松平大次郎討死ハ

若原暇合戦ハ

三洲東条城を在良ハ

河守善兵衛ハ

信長とて

三洲中將軍松平大次郎討死ハ

若原暇合戦ハ

三洲東条城を在良ハ

河守善兵衛ハ



自取と招き入て是後方と合戦を先ッ西井お置た高、今川  
方よて上野城よりと攻めとて大膳地におよそは同室中膳  
城より松平大膳めとて大膳め嫡子松平之辰仔あり  
上野城よりゆり置る辰を救ひし用とていささ出陣し  
甚くりりあふ大膳めゆけをゆめけひそきたまを中膳  
の所より一甲一我り大膳め辰もあふ合戦松平十郎  
九郎同を多なき同久を更同新八郎同松平十郎等被是  
中膳人よて是めとて出陣しあひもよふとてらり  
大膳めゆてかり終ふ大膳め打戻て足并六人といふ二十人  
とて討死中膳は在良義怒る軍を中膳へ入りて上野の  
困をぬて東条(川)よりそは在良の一族は若川甲斐守

秋持とてあのを在良とて救ある也 徳川元行は(歴)  
東条を攻んとて在良先ッ大膳めを討り西尾城を攻る  
西井雅重助親正西尾へゆりも介宗くに人殺と入りて  
東条をせんとて山道とて二百里といふとてあ怒  
突てお置置お置とて二十百里とてあ怒の者ありと  
たわとて十百里とてあ怒以下の者三百六十人城を拂て  
友浪野へ出て 徳川方中膳を置る唐孝と親ひとては  
置る中膳はち好ま六元銀を切てあふ大久保左衛門八  
右氏の中膳を打たむとてあを大膳より大久保討ねり  
また置る中膳はあふとて東条方大膳を置るはあふ松平  
大膳め足并六人の吊ひ合戦ありとああふ唐孝遠を



あふせき東条一押ありて防くた力ぬくも思政高命斗と  
乞文より東条より智井元忠より子信忠より元信景に松平  
彦直より子勲景一と記載あり勲景より元信景に  
信忠より元信景に  
元信景の母元 松平佐後  
守親也ハ 佐川信忠の四男松平紀信より奥嗣より孫松平  
重忠より奥嗣より子孫あり 元信景もをうりて去天  
彦忠も卒去のほに三別室出とありしに一族もぬくに  
當り立て今友 元信景國邊(中野城ありても)知  
事もなる有責一と一海軍中に中野東家重忠より長厚ハ彼  
佐後より四友あり松平山より松平入りて佐後よりより  
人等と出りて 元信景の属一より松平勲八郎より

あり一西郡宇土城を責人とて荒川甲斐守先光氏忠公  
入りて城中より火を付させ攻りて勲八郎も力尽きて逃去  
りては時取元のたよりあり 元信景の母を荒川  
甲斐守重忠の母より市橋友と申すハは女性の四年の事也  
荒川の東条守土の戦功とを申す

尾川名塩村合戦之事

弘治元年信光死去のほに後継の缺ありて松平海守と  
入道一に佐後守より重忠より常陸守六木清頼より信忠を  
殺んとせん信長の弟勲十郎信行を主人とせんとの事信長  
も虚実を知らんるよある時合戦ありて時長平よと傳ひ  
名塩村のりてより名塩守ハ天の女とて足信海守目と記載



も依後さういふ事にはや承りせし位長坂で佐例へうて  
依久百大守秀整と名塚村の墨よこめて彼者もとたえ  
させり同八月廿日受継を控六おの吉百廿日位長とら  
そ今迄の事には依久百と御りし家系も流叛れ  
さういふ事さういふ事を破らんそ御人名塚へ押寄り  
名塚佐例の東よあり中町よるおれ佐久百も防戦の  
用とせしに大雨さきうし降りた多井川のあ増へ海  
叶いさういふ位長の佐例もさういふ事して同廿日軍田以下未  
城より佐例も村も同く押寄り各勢二お御人志も要害  
よひおれ佐久百の佐例もさういふ事して佐例も佐例も  
おれおれ御りた多井川のあ増もさういふ事して佐例も打入

はさる七百餘人一夜に後へ入れきて戦ひ受継をさ  
黒田守御討九り首の位長の仲間松美とあつた  
依り松美を侍上た立て黒田松美つたのせらる黒田  
本年に代りて受継を討らうとて黒田氏にせられし  
終り松美とらうは討行長方依り御介成政秀てさうい  
名塚よ佐久百と御り位長の佐例へ御りた御りた御りた  
せしう黒田以下と御せん御りた御りた御りた御りた  
御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた  
入る春長新御田御りた御りた御りた御りた御りた御りた  
御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた  
御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた  
御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた  
御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた御りた



織田信行再謀叛之事 廿 永祿二五年の事

信長八劫十郎位行を東へ下りて武藏守に任ぜらる御りよと  
何の儀有さまに又劫十郎謀叛の事あらまうけ謀叛久  
敷にや去永天又年中位行ハ尾張戸部新とてとよ  
もの事て七夜の禁紙をききて家今川は年一信長を亡きん  
とあまうけりて川一衆へ下りてとよに位行の私のちうた  
及ばハ合符給る御一との事と下りての事と戸部ハ  
う高石等の事如能く御一とて大合を惜むし似れお畏て  
然と御事とてけて既よ討よありんともる風情を世上へせ  
尾川を出て駿河へ行き細と負て免之禍一何の御一と  
中に免之候のて新なやと改め筆吉の御小御せりてそのち

部十郎ハ春日井部龍泉寺に城を構へ織田伊勢位教  
りとの信長とあ収る御一彼しとを人ませまの尾川東部を  
せんよの心とて尾張桑名人も劫十郎よんを合せり  
は時常備控六ひいと謀のそく御一と事と誅ねたまは徳向  
控六を憎まう今年四月劫十郎位行法士を合食心  
せらまに常備とて五年控六ハ失命ゆとるやをあら  
も物方よとて席もなくとまもくけらまき面目とてい  
近出しとて夜ひそに渡河し来りて劫十郎謀を細くと  
ころり信長ハ捨家<sup>常備</sup>控六と謀り候りて大病と祈りて  
家督を劫十郎よ譲る一とてやとては御一吸入て討んと  
し信長ハふく寝病よ入て醫者控祈禱さなく御り



こかくはまある角と據る一二月三夜のみを食もわく  
断ちてもくく被養へて面を大病の作よりらへ村打  
長門よりて母の方へ此終の初より一初よりちて對面  
仕度より等々母の行長のていさへて涙を流し一初より  
俗より行長家病余りきりて家習を初十帝に譲り一  
を信長死しては八初十帝悲候あり一此話を初十帝へ知せ  
給ひ分厚しと申し母の行長は信長初十帝へ一書をばし内へ  
獨笑して後例へ本系行長兼て討子の人を定めて山は  
飛澤吉弘孝長谷川権之助秀治川鹿青貞を以て不當千  
の力士と二人に付て秘苑の山志津の秘指を青貞に授て  
初十帝を打てて一信長を殺す一初十帝を青貞を力めき持て

一奇切なるにむをりてやを乞切換一信長は母の國へ  
迹入むとある紙を抄り討子の若返つき兼一に池田孫三郎  
信輝おま廊下にちり信長をそとて刺らり一りり  
室を信長の虚病強きりて主は尾州信今川へを懸置  
りのありりり智多郎も主今川へ隠す中村鳴海科池  
は三城ハ賢元一信長一科池一ハ  
松平初郎希公三寺殿ハ戸部初郎たまり鳴海一ハ葛山傳中  
等一是尾州の地あり六織田方と迫合り柳生初郎たまり  
今川と政身して用ひらま一四と初十帝殺さるる一とて  
信長を謀らんとするものより信長も戸部初郎と討人とて  
二二廿一戸部初郎は隠する能書して尾州も大黒渠より







向ひ行来(の内)西嘉敷の上流せよとの上言こととて刺殺せ  
けりし所ハ山形佐々木浪人(之)父ハ今井角太郎とてりり  
曾えハ行方の隠謀(之)於(之)知(之)人(之)事(之)上(之)行(之)長(之)の(之)知(之)心  
い(之)さ(之)ぬ(之)も(之)云(之)於(之)内(之)西(之)能(之)ひ(之)あ(之)り(之)と(之)る(之)こ(之)と(之)一(之)行(之)の(之)金  
俵(之)あ(之)り(之)と(之)り(之)と(之)

幣別之乱(之)事(之)

幣別之乱あり(之)と(之)云(之)依(之)来(之)古(之)角(之)定(之)れ(之)子(之)左(之)衛(之)尉(之)長(之)義(之)  
賢(之)ハ(之)伊(之)勢(之)を(之)攻(之)と(之)り(之)と(之)云(之)家(之)長(之)小(之)倉(之)云(之)何(之)も(之)よ(之)と(之)云(之)人(之)を(之)係  
て(之)弘(之)治(之)二(之)年(之)十(之)月(之)中(之)旬(之)夜(之)向(之)一(之)先(之)の(之)三(之)重(之)郡(之) 子(之)程(之)政(之)事(之)を  
攻(之)り(之)小(之)倉(之)方(之)より(之)城(之)中(之)へ(之)和(之)を(之)入(之)て(之)子(之)程(之)は(之)男(之)子(之)あ(之)り(之)と(之)云(之)  
弟(之)賢(之)ハ(之)純(之)徳(之)後(之)友(之)也(之)と(之)云(之)程(之)秀(之)の(之)中(之)と(之)云(之)子(之)程(之)の(之)事(之)は(之)子(之)定(之)め

子(之)程(之)政(之)事(之)と(之)云(之)事(之)其(之)軍(之)を(之)入(之)り(之)は(之)後(之)友(之)と(之)云(之)ハ(之)此(之)昔  
は(之)友(之)兼(之)尉(之)實(之)基(之)の(之)後(之)よ(之)て(之)攝(之)政(之)は(之)後(之)友(之)之(之)弟(之)也(之)其(之)の(之)基(之)の(之)嫡  
孫(之)也(之)何(之)子(之)程(之)の(之)方(之)より(之)攝(之)政(之)は(之)弟(之)也(之)と(之)云(之)依(之)来(之)一(之)使(之)者(之)と(之)云(之)し  
る(之)に(之)取(之)賢(之)ハ(之)神(之)宗(之)と(之)子(之)程(之)の(之)人(之)殺(之)い(之)は(之)後(之)と(之)同(之)し(之)に(之)北(之)郡(之)以(之)弟(之)の(之)  
云(之)事(之)一(之)の(之)中(之)路(之)と(之)云(之)は(之)五(之)十(之)路(之)を(之)加(之)一(之)の(之)事(之)は(之)將(之)上(之)軍(之)殺(之)を  
と(之)り(之)せ(之)と(之)人(之)威(之)し(之)り(之)子(之)程(之)と(之)依(之)来(之)又(之)今(之)を(之)而(之)と(之)云(之)事(之)其(之)事(之)  
有(之)之(之)を(之)子(之)程(之)の(之)友(之)郡(之)西(之)方(之)乃(之)國(之)軍(之)も(之)防(之)戦(之)を(之)て(之)宇(之)都(之)郡(之)の  
は(之)友(之)兼(之)尉(之)政(之)事(之)の(之)加(之)用(之)也(之)と(之)云(之)古(之)角(之)は(之)後(之)ひ(之)り(之)と(之)云(之)推(之)り(之)に(之)三(之)重(之)郡  
の内(之)柳(之)城(之)ハ(之)神(之)戶(之)家(之)に(之)在(之)り(之)と(之)云(之)有(之)一(之)の(之)城(之)を(之)攻(之)む(之)に(之)神(之)戶(之)中(之)路(之)を  
お(之)人(之)修(之)よ(之)て(之)弘(之)治(之)三(之)年(之)三(之)月(之)廿(之)八(之)日(之)は(之)後(之)友(之)推(之)り(之)よ(之)と(之)云(之)後(之)神(之)宗(之)の(之)  
家(之)老(之)鬼(之)神(之)岡(之)の(之)城(之)に(之)依(之)て(之)後(之)中(之)路(之)智(之)父(之)子(之)謀(之)叛(之)一(之)小(之)倉(之)と(之)一(之)味(之)と(之)



神戸の海をとりかひし人の書子を逃致し小倉の海をとり入至  
りしに又佐原家の棟梁と古布手助といし中務佐原  
と名を借し倭の謀叛し包し鬼神忌の城を責めて神戸  
下総をとり入りし神戸力をとりて神戸の城を返さんし  
とて同出仕人園安を召寄り登任し曾士あまた神戸とい  
ふ和名をたまたま中佐城と名付し帝に如務と名ふ中佐  
同ふし工原市助なるものありしを合せて西勢鬼神国よ  
池原の神戸は勢を合せて小倉の海をとりし神戸城一  
押寄ありしに其の親小倉も防し大勢ありしありゆへ  
終より小倉ししと中務城一逃入りしとす神戸は逃打し  
六十七騎ありし佐原中務は子六十五とありしとあり

しと下総をとり方より一旦のあまハ戦代の功に免し右傳ありし  
とありししと六城とありしありしとありしとありしとありしと  
小倉の神戸と名付しきて中務城ありしとありしとありしとありしと  
中江別(海)よりしとありしとありしとありしとありしとありしと  
志原の彼社の士民とありしとありしとありしとありしとありしと  
はとありしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
旗をとりありしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
伊勢の國司ハ中務中絶し具教とありしとありしとありしとありしと  
官方せしりしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
大和紀伊志原の威を振ひしとありしとありしとありしとありしと

大和紀伊志原の威を振ひしとありしとありしとありしとありしと

中務に任し  
大和紀伊志原の威を振ひしとありしとありしとありしとありしと















器九十一級とや甲別の子原亦九十八人城守の子原亦二百  
七十一人とや之に一登亦七日あ降たに引込しんり又弘治二年  
八月亦百川中泊(京虎出陣中武田の相入海して去降し  
及て陣中に敵を多く移すと云位云史て一両中に敵  
降に火車指(一)を付るゆもく味方より折出(一)も是謀  
ありと制(一)も果(一)て火車あり(一)先甲別帯一人も出たり  
夜のや及て京虎床礼(一)獨りて一万人せいつといふ  
又廿七日まで位云の降より(一)馬一足を折して移れり  
と云ふ人(一)是夜二十人斗出(一)て降を(一)に城は勢出合り  
り(一)位云亦(一)日に降を(一)引込ハ京虎も亦(一)日に引入り  
弘治二年より永禄七年まで八ヶ年の百川中泊のせうあり

吾勝之百勝(一)亦(一)軍(一)と(一)山(一)時(一)あり(一)一(一)謀(一)の(一)教(一)も(一)あり(一)に  
亦(一)に(一)指(一)あり(一)り(一)

京虎平井左衛門所(一)城(一)責(一)事(一)

京虎は去年弘治二年十月以下上列平井は存て川中泊  
も是より物(一)今(一)年(一)三月(一)も(一)是(一)月(一)八(一)日(一)亦(一)あり(一)其(一)物  
柿崎亦(一)余(一)と(一)亦(一)孫(一)亦(一)河(一)田(一)城(一)を(一)責(一)あり(一)在(一)れ(一)り  
一(一)城(一)指(一)城(一)を(一)京(一)所(一)と(一)亦(一)知(一)の(一)城(一)を(一)責(一)あり(一)亦(一)亦(一)亦(一)の(一)若(一)も  
上(一)取(一)一(一)降(一)の(一)亦(一)一(一)と(一)く(一)人(一)質(一)を(一)取(一)て(一)一(一)城(一)指(一)の(一)城(一)に(一)入(一)り  
城(一)中(一)城(一)は(一)能(一)宅(一)佐(一)後(一)上(一)地(一)の(一)亦(一)亦(一)り(一)亦(一)亦(一)と(一)取(一)め(一)せ(一)り  
又(一)亦(一)是(一)ハ(一)城(一)守(一)一(一)管(一)領(一)の(一)先(一)規(一)亦(一)亦(一)ハ(一)降(一)賢(一)其(一)と(一)亦(一)亦(一)に  
其(一)糟(一)亦(一)亦(一)回(一)柿(一)崎(一)亦(一)の(一)老(一)臣(一)山(一)む(一)亦(一)亦(一)平均(一)一(一)ハ(一)亦(一)あり(一)







徳川元康君ハ弘治三年の秋波河（りて）賀元（福）城年一  
今年永祿元年四月中旬島崎（海）城あり三別古城あり  
浪本日向守主教ハ去々年在良（島）城と一味一徳田（海）  
徳川（背）城七年討亡きんとて寺社（を）奪せ城外を放火  
してを造りて彦根（城）母梅坪（保）保赤の城（に）降参り又  
元康君母方の伯父水野（守）守信元も父を所を更（に）改り  
徳田方より尾別（石）城の城（に）居る所をと言ひせらる  
信元（に）使て  
元康ハ志留（の）城（に）居て軍せん（に）腹（に）  
守の城ハ折（り）預人（と）城（を）知（り）戦ひ（を）  
有（り）信元（に）信元（に）威（を）凡（に）人（に）お（し）さ（し）味（を）を  
一先（を）を（り）めて戦（ひ）し（に）む（し）お（し）さ（し）打（て）終（り）不（し）  
（に）

川（に）入（り）賀（元）使（て）大（に）威（を）一三別（山）中（と）お（し）さ（し）て三石（費）の地（を）  
元康（君）（に）一（に）付（り）お（し）さ（し）尾（別）の（に）去（り）今年（今）川（に）属（せ）  
科（地）城（に）ハ  
徳川（方）松（平）助（四）郎（を）籠（め）れ（り）一（に）信（長）  
（に）お（し）さ（し）た（し）人（と）て責（を）め（り）防（ぎ）し（に）大（に）款（を）  
（に）お（し）さ（し）て下（に）は（に）信（長）の（に）命（を）一（に）同（に）三月（に）亦（に）雨（風）烈（に）き（に）夜（に）  
劫（四）郎（守）の（に）陳（に）夜（に）打（て）一（に）徳（田）勢（を）大（に）亂（を）軍（を）竹（村）  
破（り）て戸（崎）池（山）を（に）打（た）り（て）川（に）賀（元）劫（四）郎（守）（に）一（に）働（を）  
甚（に）賞（を）一（に）給（り）

園（東）公（方）賀（元）氏（を）務（め）岡（津）社（を）事（す）  
是（に）利（基）氏（氏）海（原）持（氏）中（に）代（に）十（州）の（に）お（し）さ（し）て武（威）も  
有（り）成（氏）政（氏）之（を）基（に）晴（氏）今（の）賀（元）氏（は）武（氏）ハ（に）忠（の）も（に）公（方）



こよりさるも七の貴氏ハ小栗氏康の甥曾孫十八歳の時  
公方と立ててもてぬらり今夜病ケ思海軍あつとと氏康  
より治政の勢固掃除以下大なる強河を所り小栗氏持  
其目本宗下方右給を山室儀ハ八百中人よて道の左もよ  
用ひまひく守備を以てなり川邊津奈川戸塚鎌倉一の傳  
る食意おもゆはしり公方ハ細代の興の上宗給の國名城を  
築田中務政見ハ御劔と持つ一色義成ハ御世を役中を長  
大を依ハ御兼と傳ふお家入ハ依をき小由ひの扈從布衣の  
侍より上列ハ御興の前後よりあり強るの去三百餘人より  
こまに治より所は御より向ハ國名城ハ分りおれより古河ハ  
海を給ふ

六角軍實判愛の事 付 早魁疫病病と突浪の事

此の國ハ戦初の時依ハ本を命定程次昂程を三命整程  
早魁之程ハ早魁法兄弟ハ女人恩賜の國を成彼より子孫  
代ハ依ハ早魁の軍の時より他人乃依とせし依ハ氏程ハ  
子定程とら不定れハ嫡子と實實とふ多病よりハ軍  
代と合早魁の程ハ依ハ別答依城ハ重きと身ハ親者  
城ハ居て幸ハ女實より子取ある事也 年 貴氏ハ依ハ  
ふふさるハ貴氏ハ一向守備の事ハ自托と強も付て家と  
此に中依依ハ本の老臣本程と情む妙ハ今年四月八日に  
貴氏ハ江雲寺より落髪して抜園休養禪と号しり  
されも國政とハ依りひり同月十日依ハ早魁より家人







そよお花旦帯を兼ハ忘念子の前田左馬守首とあり  
より信清ハをゆく信長ハをせよ信長乃より死て返一  
致ハ一六城を又打取て城一逐入取らにて力を失ハ次第  
城を落してて之千人といハ一も終一之百人ハ一をゆく一  
信長も是なり小勢ありきとい志をゆく打取て法例一海  
一六信長も大少一海より取一信長又之とあつて千人  
斗に如一六翌年信長信長又責入一に三月一志も  
終一力尽て大の信武英一甲信賢等ひそくに城を落て  
至の太和守信長ハ三別是務一城き甲左を討取信賢ハ自  
朔日一河一逐り六角義頼一たりて豊秀ハ技指を兼  
信長ハ一信長豊秀の老臣一は及他馬も豊秀ハ内一

義頼ハ何事も兼とに任せて老臣も在後多く事と頼ハ  
終一今又織田信賢と扶助の事も豊秀に志を収ハ兼  
情ハ一妙一又この次義頼ハ九三の信上月源ハ一の事  
南条中務守ハ名跡と頼ハ兼と兼一は豊秀も知  
七年信長も沙汰前一掃に同年十月十三日義頼  
一あり豊秀ハ對面の時信長も出テ援取一四道あるハ  
あハ一四取たありハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一  
尚屋敷の由事年在陣代ハ一掃に本年義頼の取ハ一  
取の取た也一豊秀の取ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一ハ一  
信達宗女也といハ息兼頼頼一掃一掃一掃一掃一掃一掃一掃一掃一掃  
毒烟一又織田信賢と兼一も老臣一も在後多く扶助一



赤物教よ知りと河之屋又上月原八を南条の赤智と名付  
り其友の心よりして是君を蔑如する罪に付也自今存ハ  
臣の臣と有り是を志と作らまよふと前頑い有りて赤に  
對してこそを嗜く首を削んと力をおくは後笑て其友の  
外より其の心と持てせんす日比の中ありと是も左刀を  
ぬくまはの志ともたふさす一國幸よハ及ハありたり  
是より前頑父子は後頼秀と名付りし同八月に頼秀ハ  
江州を由奪し一若狭國へ移し彼出の吉備武田を後継  
義統とすといひ前頑と亡んまをりたり

義輝將軍江州朽木御法元年

將軍義輝ハ又晴元と名付れりしころ氏徳も其子

是を恨みて大軍を起し其處へ又江州へ移給ひしに朽木  
義頼方より七千人加勢し將軍御勢と合せて一万人白川  
陣し細川之敵二万之千人白川へ赴向し其日にせり合たり  
大合戦ハありしも毎のく死人亦千人出たり九月  
亦之日より十月を物奴ありし時氏徳細川 義愛 三好方か  
將軍（和年とす）氏徳を再ひ其子補せらるる暇もく其幼  
せんとすより又中合新ありて海流へ給ひたり朽木ハ定頼  
より今義頼を將軍へしはまかりし時前代は晴元と氏徳  
三好未生捕下揚州芥川は其時より年経て晴元卒し  
たり是より細川権をとりて三好威をありし氏徳ハ其子の  
名をとりて三好長安と名付るははるひたり其末是長安あり







圓司具教ハたよいつて今度ハあま向家難車よやま  
草と積せ風よより火をつけて或ハ在家と毀ちて堀と  
埋め火急し責し六秋山陰を乞て父の宗丹入た人質よ  
切らるゆりて人質とハ大岡山某に託けられけり  
宗丹入たも病死し一春入たを同<sup>一</sup>死せぬその  
生後と後二帯り中二帯りよ一秋山右を治せといふを及  
右兵衛川一益々堀よ多し一益ハ御田

信長の子

け時に及し蒲生中津守定秀といふものあり渠ハ元來足  
利家の侍し二千人の大御所一御軍威とて依り六  
角江に及し威とあり一御定秀も此地の城主一御定頼<sup>依り</sup>  
角下とあり又より一御定頼も子も御りて六角家

三代族下に属しけり

常陸正海老山王堂軍二年

今年ハ永祿二年の如し今年甲州信濃に軍ありこの  
濫觴ハ甲州信濃家より一御定頼ハ信濃の子と出判友  
政光と給り信濃七帯の光と名のせむ御光ハ十六代々  
の政務ありえり信濃代々の如し之永祿二年四月政務ハ  
右邊の信とありて大雲辰長と号すの意八年八月御光  
家臣御光と和泉守と稱してより一御定頼の佐竹義重と  
下地の子と給し信濃七帯と信濃の御光の時信濃如替して依り  
と進ちりて信濃も小田氏治<sup>下地</sup>の御光も信濃と款し一月信濃  
寄信し以政務ハ右邊御光と同産を帯同信濃も代り







二子六百騎より海老嶋へ出陣し、其法に當りて定数も山岡も  
海老嶋へ出陣し、戰場河にくだりて合ひて居るに、海老嶋嫡  
子七市晴範二十騎計にて自ら先登し、其の二子六百騎  
一同に追ひつき、戦ひしに山岡鐵口百人隊うちあはれて川  
近く山岡父子に海老嶋を率ふるありて、遂に常陸へ逃  
りて土浦城へ入り、海老嶋山王堂にて実檢せしに首級  
四百八十五、中曾首二万三級とや。山岡小田は四十二、田中  
元海老嶋小栗砂塚を向ひて皆往來し、所々あり、戦ひに敗  
れ多く病死し、嫡子七市晴範の家督を継ぎしに山岡の如く  
んと研ぎて、所々ありてを托し、中曾とて返さんとす。  
軍一もや。

本下後名命秀吉出世之事

元弘元年と田圃に奉け、兼六高を登庸し、高の孫隆の  
子大原の時正、時正の嫡子大原の隆とあり、其の上より  
天より命九つの日と村ありて、大原の隆と時正とせらば  
公時、大原を廢し、己れ天子とあり、其の生れ、西遊は  
老ありしに、時正、隆とあり、其の身と隆と押し、大原ありし  
又時正を殺し、寒促天子とあり、ぬ中朝に、いふ所た、久未  
き、其の身に人皇百七代、正親所院乃時天、尚りて、本下  
後名命秀吉とあり、其人、昇殿の身と信長と用ひらね、其の  
日本國の、いふ所、大原の、いふ所、久未、一、沈惟毅、あり  
和とありて、時正乃八段の、四段とあり、其の、武を











志を願ふ一廉貞の六貫金十兩と与んと約束し一廉貞の福人の  
堀田村を以てその家の家子居りしに翌日盜人彼并を捉て其の  
質として青銅の器を借ると不質を以て其の秀を以て若くして  
又其の福家の并之川擲捕て推問せしに盜人の福家の并の并の  
若く商人の六貫金十兩とて半以天子の御札して彼奴を人として  
信長の陣にありしに其の長信を帰陣の長を是とあ申して其  
らも其の秀を娘終りて信長の事を以て其の福家の并の并の  
也より其の福家の并之川擲捕て推問せしに盜人の福家の并の并の  
罪せらるるも誠は謀りしごとく百貫の福を以て信長に上貫金  
多く給りし人との由も申す

徳川家出嫡子三郎に康元誕生す

永祿二年三月駿府にて 徳川元康忠の出嫡子誕生有り  
竹久之とトテりし母ハ今川元之の妹婿國に刑部中納言親の  
女あり其の母は徳川一途一子給ひて徳川家とて其の母人より  
中に安信大將西院を以て收養人といふに同ハ其の年ハ  
少人の當家の家智より給ひて其の母人より其の母人ハ  
考沙治二年 元康云其母海城の以出又ハ給ひて童  
子二人ありて 徳川家代々天下の寶物とされりんと  
其の給ひて其の母は是と云ふ其の母也二童子の曰く擲し  
同く其の母を以て其の母ハ天子月天子ありて失給ふとの  
由也其の母は其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ  
其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ其の母ハ



中子孫の末久しく家繁榮を遂げたり是とて字に日下人と  
なり日下人を以てに擲る天下の事復敗る一國を大率  
とハ中情の第一之 君天久土年に中誕生すりく壬寅の  
四年之宮より指を折ルハ宮卯辰己午五代天下安徳  
と云ふ事一未より中情を同くさる未の年乃

大君政私あり大寺多きは時中情あり申酉戌亥丑  
宮と縁返一崇徳長久思一是と天より告給ふ事一と一  
是もりて考ゆは 若くは未の由と也博士と申すも  
中生三年大切なり故に悦びて一果ては中生害あり  
中二男 秀忠云由中情とありて卯の由年  
ありりて云云ありは博士と安信を以て恭賀と申す也

勢州江別駭動之事

永祿二年二月淺井祐政の子長政方(信長の妹を嫁せしむ是  
は後世より長秀極と稱せしむ)と名は信長ハ  
澁川一益を伴勢(一益ハ京坊天皇のは亂伴源枝  
資兼より末子幕の終ハ本氏と二ツ川西之む)ハ江見甲斐の  
任人あり(江見江見と稱す)は長政の母也一彼はの先子とあり  
四司の勢と名を事ひたり(素志負本股持後上本白飯  
渡田より松本ハ信長一屬一と一四司ハ口惜くある事あり  
玉司乃侍素志十素ハ改男治希三希と駿河今川家  
縣刑部より(素志に事ひたり)四司もくはひりて  
他由一縁を後ふとありて上終人あり(其具教は終口を



位して素久十系と誅を依て素久一族を起して安徳  
郡津の嶽より山中く大勢よて要害もよくし有退治状  
々ありとて江別六角義頼一か増と乞ふは具教ハ依く本  
義頼ヶ増あるあり依て義頼ヶ嫡子弟弼大將として主勢  
之を人同辛八月九日折出せり惣より江別旗攻の内三雲  
新丸まの一黨の介ハ弼弼上臣等割一親等々也(會合して  
義頼と討んと議を乞ふハ之れは反依る多に難とあるは企  
ありしとや依て弼も惣別殺向ハ山より)

上松系虎抄年合戦付 位云飛騨軍と事

上松系虎ハ主領抄中(出法)推久抄中(御雄神保刊記)補  
正親と物不歩也とも神保推久ハ國の東の志ある系虎利をく

人殺とハあんと事終敵より乞ふとめハ永祿二年三月中旬  
のりありしに系虎謀り乃死に一二三日とて弼弼上依ると  
て之は夜中ハそに陣屋を焼てををすとい川近く敵勢是と  
見て乞ふとめと追及赤三の伏の筋(屋)也一系及より伏を記て  
殺ハたは揚て心あく後及(海)系をま下り位別川中流(出)  
位云に對陣一二月十七日より四月二日を坊より多(抄)中勢向ふ  
とて鬼中流河原系負負を侵して位云(中)老より乞ふて位云と  
物人々々出法せしに抄中飛騨の面々多(事)向て河原陣を川  
上(抄)中多を多の初一軍傍(一)より上之位云迄より一軍ハ  
是より多(一)より多の自由を給ある(位)云も飛騨表(一)より多  
此のより多に引入り系虎ハ抄中(向)ハ一先陣耳物柿湯山系



新設田赤い推念江守保保陸(夜討)一たよ打捕て城中ハ大累  
上校(保)は討時京虎三つ(中)名ハ赤赤ハ赤赤と戦ふと成色ハ  
面々ハ軍ハまる馬山(一)同んあハ出張せん同んあハ城後(場所)  
厚(一)柳系江七部(一)終終是助あ人(一)あつていせり終終は同ん  
一(一)て方より出いらひまき事(一)は方より(一)出(一)ま(一)と(一)引(一)おれ  
り(一)扱又信玄ハ山縣耳利(一)る場と飛澤山(一)此(一)多に彼國(一)傳  
白屋秋貞(一)族也(一)の江馬村宣(一)ホ一初(一)より(一)て(一)跡(一)ホ(一)ホ(一)川(一)近(一)支  
信玄方より(一)堀目(一)は(一)信(一)を(一)あ(一)ら(一)て(一)長(一)坂(一)長(一)岡(一)并(一)本(一)方(一)り(一)席(一)後  
た(一)と(一)あ(一)り(一)白(一)屋(一)江(一)と(一)押(一)又(一)流(一)沼(一)郡(一)に(一)小(一)高(一)山(一)丹(一)江(一)と(一)捕(一)一(一)事(一)  
飛澤山のとさ(一)と(一)事(一)

城中を畏合戦(一)信玄責上別筆備城事(一)

京虎ハ山江上(一)生(一)あ(一)る(一)を(一)一(一)旦(一)和(一)平(一)ハ(一)志(一)さ(一)れ(一)も(一)信(一)玄(一)も(一)彼(一)由(一)と(一)  
ら(一)ひ(一)ひ(一)ら(一)他(一)人(一)ハ(一)そ(一)れ(一)て(一)山(一)江(一)上(一)生(一)る(一)甲(一)斐(一)あ(一)り(一)と(一)勢(一)を(一)信(一)  
永祿二年七月(一)亦(一)皆(一)城中(一)出(一)て(一)る(一)圍(一)上(一)陣(一)一(一)り(一)推(一)念(一)保(一)保(一)も  
同(一)く(一)を(一)り(一)て(一)討(一)陣(一)キ(一)京(一)虎(一)ハ(一)あ(一)の(一)を(一)ハ(一)手(一)に(一)か(一)て(一)前(一)は(一)た(一)た(一)の  
飯(一)と(一)よ(一)く(一)令(一)一(一)り(一)夜(一)中(一)ひ(一)そ(一)ら(一)に(一)敵(一)陣(一)一(一)札(一)入(一)一(一)東(一)西(一)南(一)北(一)切(一)て(一)是(一)方  
夜の(一)音(一)に(一)城(一)中(一)響(一)ら(一)る(一)て(一)引(一)返(一)く(一)曹(一)首(一)三(一)百(一)二(一)十(一)一(一)ら(一)ち(一)九(一)と(一)介(一)新  
を(一)あ(一)ま(一)り(一)討(一)れ(一)て(一)城(一)後(一)ハ(一)あ(一)る(一)あ(一)ら(一)に(一)上(一)別(一)筆(一)備(一)城(一)事(一)と(一)名(一)に(一)信(一)玄(一)も  
業(一)正(一)ハ(一)代(一)官(一)士(一)の(一)あ(一)ま(一)り(一)も(一>先(一)ハ(一>在(一>京(一>の(一>業(一>平(一>初(一>任(一>の(一>苗(一>流(一>あり  
地(一)勢(一)ハ(一>少(一>弱(一>の(一>ゆ(一>に(一>上(一>校(一>の(一>老(一>臣(一>と(一>り(一>し(一>く(一>憲(一>政(一>の(一>忍(一>ゆ(一>一(一>菅(一>野  
上(一>京(一>に(一>さ(一>ら(一>れ(一>て(一>出(一>國(一>の(一>信(一>ハ(一>氏(一>康(一>と(一>信(一>玄(一>と(一>り(一>り(一>く(一>業(一>正(一>を(一>攻(一)  
う(一>も(一>八(一>十(一>年(一>の(一>官(一>兩(一>所(一>と(一>ら(一>ん(一>り(一>り(一>信(一>玄(一>ハ(一>菅(一>野(一>と(一>攻(一>ん(一>て(一>一(一>百(一>二(一>十(一>人







元亨元年、討礼し、は討後井山四郎と蒲生十景と  
今も大垣の先陣論し、あつそひしを双方制し、山にそ  
まねしや、後井山四郎、八幡生十景を切殺し、尾州へ下け  
りき、信長は、信長、彼を討つて、一ふのたし、は、あつそひ  
怒れ、も、信長、大垣の生ねあつ、は、別浪人、い、あつそひ、石  
抱へん、と、あつそひ、

常虎上洛、自、公言晴氏逝去、并、常虎、原陽、無、事、

長尾常虎、永禄二年、中山、上洛、し、輝虎、一、指、し、法  
諱の字を給り、輝虎と改め、細代の奥をゆり、は、関八州の  
管領を給り、四、海、威、を振、了、上、列、より、古、河、一、寺、輝虎、  
活、勇、の、人、を、將、と、定、ま、の、ち、有、ね、し、は、討、ま、く、中、原、原、あ、つ、そ、ひ、

常虎、作、合、ら、し、は、中、津、代、あ、つ、し、と、中、津、代、も、日、晴、氏、は、  
割、り、の、外、よ、て、あ、つ、は、永、禄、二、年、乙、未、七、日、岡、本、城、に、逝、去、  
り、永、仙、院、及、つ、り、り、中、津、代、の、氏、康、の、妹、の、中、津、代、  
あ、つ、元、正、永、禄、二、年、同、年、六、月、山、本、氏、原、陽、長、せ、り、る、松、本、  
と、し、り、男、七、人、女、七、人、の、よ、あり、嫡、子、氏、政、二、人、由、井、保、長、と、し、  
し、り、大、石、定、久、り、長、子、と、あ、つ、り、あ、つ、は、徳、川、武、氏、池、山、今、の、八、王、と、  
あ、つ、り、山、本、隆、興、の、氏、輝、と、し、り、乙、未、七、日、岡、本、城、に、逝、去、り、  
あ、つ、は、徳、川、氏、規、と、し、り、り、明、と、し、り、は、人、に、れ、り、ま、孝、り、の、人、に、り、り、  
新、三、希、武、別、秩、父、并、戸、大、林、山、城、之、后、田、邦、房、り、長、子、と、  
あ、つ、り、あ、つ、は、徳、川、氏、同、本、山、本、氏、原、陽、長、せ、り、る、松、本、  
し、り、り、新、三、希、武、別、秩、父、并、戸、大、林、山、城、之、后、田、邦、房、り、長、子、と、



六竹王丸は戸念城を山本右衛門依氏克とす七ハ二帝  
は八上校輝虎の妻とあり二帝常虎とす女子三林  
院及是晴氏の女新上陸氏ハ氏原のいもと婿としてしり継いす陸院及  
ハ氏徳の女あり一記老の語あるん中のみすよ半中  
二六村田友春良某の書次に常陸友政の書に陸介の書に  
三川友今川氏との奥方次に尾湯友政の書に

常陸國合戦 下総柳橋軍 陸院孝子軍

上校輝虎ハ山本と亡さんと上陸武虎の誓と信申す介字放言  
那須宗保佐竹重山田政氏息氏治小山と梨おも上校一味を  
陸院晴朝とくハ上校一法年太の法おと頼ハ終利とくハ  
きうく去る承祿二年八月朔日政朝卒一辭を子明朝ハ  
朝光ハ十七代の家と繼て同九月抱疾して死する所合衆七郎

晴朝十八代目の家とす山田ハ是と孝にとし承祿二年  
九月十日

陸院方に志願を奉り大將として大將と打ひく山田被  
引退くは村山田と所山本の地ハ陸院ハ所なく承祿三年  
の氏晴朝ハ古河の所なりと承祿三年と承祿三年  
中て承祿のころ一城國名とも承祿とも加勢一は村  
山本友祥所地國名と國夫を奉り又謀叛して山田依竹  
取領山とすを合衆を列下書と出法一陸院ハ為と伺ふ  
晴朝ハ承祿のころ出と後給りて承祿三年正月國名と立  
て海軍あるに海軍中務ハ晴朝と内く承祿あり一ハ五百人と  
卒一途平柳橋といふ所ハ信てあり晴朝見て款とあり一  
海軍あるに庶子の如の免るを承祿の如く承祿







盛衰通紀卷第十八

目錄

三好一黨中山子以泉別之苗田合戰之事

三好長安代官代付大逆物起之事

蒲行責出京付後河氏繫川十合一

并蒲行取立公之事

和泉公方清是河實付次田海忠

并蒲行蒲合之事

今川重元尾州殺向付大子全糧入

并德守母丸根在柳原之事

信長出陣付熱田神原等場并願書之事



尾州捕獲金我丹要元討死之事

元原系自入寺城歸之別事

呂部七教責及新屋城付以海城軍之事

三州石之散軍因出而合我之事

佐乐而秀為織田行長之婿事

將軍輝以入由之好者長之事

家康云与行長和平付三州如軍之事

行長西受法教而付例侯合我

并長并日以地討死之事

或加及魔法秘術之事

出雲早了付也江小路勅之事

四國早了之事

空















村王の姐已去宗の揚美死是皆瓶の化を如之として玉原のお  
上津地祇の白毛の幣をとりて招魂ありてを祀す六根は津守  
板走山府君の里系よりなり白毛と成て中津出取成り  
形をとりて上浦介のり上徳介産をとりて取成りを成り  
成り成りなりとて一族大を設けしる上より孫村を成り  
又中古大進の初とせり又去代六浦ありて治承四年庚子  
弟とて紀一を去去和元年辛丑八月乙酉卒を去去を成り  
實を成りしる一に去成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
と成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
浦介美死を和國製置お成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
彼末上作自らり仍て長和元年九月十三日由舟濱にあつてに檢  
あせりしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相

あせりしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
南面の中央より上と成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
信濃の先西向を成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
右小丘候中水丸の次西より一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
系系小系去肥去屋田代思崎依成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
葛加加反棍系久下徳谷平山飯田村成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相  
の子祖國を成りしる一に成りしる大進相と成りしる一に成りしる大進相

二人所謂

- 大介孫村本を弟美宗の嫡子
- 和國小左衛門美盛 大一正
- 廣光の子
- 上徳介左衛門良光 大一正
- 美盛の子
- 和國小二衛門美茂 大一正
- 廣光の子
- 大羽成司 忠胤



令田小左又次

大介ウケ中山四郎安実

若狭六郎通俊

大一足

伊小平次俊俊

山田内三郎 俊秀

秋屋九郎 时益

大一足

山田三左衛門 有花

横山若次宗隆

大一足

檢入長松梅六郎入左西可

喚次長松浦十郎全法

檢入の役者赤頭巾と忌成ハ又燕尾帽と用也有髪ハの者ハ右

外ハ忌素袍指短刀扱末廣袴ハ馬場ハの鞆とさハ一ハ三ハ

崩黄厚ハの鞆ハけハ吸次ハ烏帽子素襦ハ忌ハ一ハ短刀とさハ

竹の根の鞆と拵ハ真ハ人ハハ弓矢と帯ハせハ村ハ子ハのハ袋ハ束ハハ彼ハ鳥

帽子ハ袴ハ物ハの下ハ裳ハの上ハ忌素襦先短刀ハ丸ハの肩脱ハ弓ハ鞆ハと拵ハ

弓と拵ハ曇目の矢一節ハと糸添ハ又ハ拵ハも毛ハと先ハとハ或ハハ二節ハ三

節ハ太ハのハ子ハハ竹の根の鞆と縛ハ付ハけハ統ハ一ハけハ拵ハ太ハのハ膝ハハ

麻皮の行騰と付ハ法ハと拵ハ一ハてハ紐ハハハ足ハハハ沓ハとハくハ廣ハをハ扱

沓ハ一ハ族ハハハ皆ハ以ハ拵ハのハ丸ハ角ハと拵ハ一ハてハ或ハハハ赤ハ或ハ第ハ二

帯ハ後ハよりハ拵ハハハ毛ハと拵ハ一ハてハ弓ハハハ流ハ及ハ三ハ不ハ友ハ矢ハハハ拵ハ拵ハ拵ハ

村ハ登ハのハ工ハ拵ハハハ拵ハ一ハてハむハ差ハハハありハとハやハるハのハ毛ハハハいろハくハこハとハいハた

皆ハ鬘ハ也ハ紅ハのハ厚ハ紙ハと拵ハ一ハてハ中ハハハ三ハ浦ハ上ハ拵ハ一ハてハくハハハ厚ハ紙ハのハ鞆ハと

令糸の紐ハ更ハもハくハのハ鞆ハと拵ハ一ハてハ二ハ交ハのハ村ハ子ハハハ次ハ子ハ大ハ致ハ七ハ足

中ハリハハハツ

相ハ了ハ九ハ郎ハ一ハ為ハ法ハ 大ハ一ハ足

依ハ奈ハ十ハ郎ハ一ハ為ハ連ハ 大ハ一ハ足

行ハ北ハ新ハ助ハ為ハ仲

大ハ多ハ和ハ三ハ郎ハ一ハ為ハ久

大ハ一ハ足

若ハ一ハ志ハ三ハ郎ハ一ハ為ハ法



廣たう居

寒川平太丈流宗

夫嶽夫右衛門公継

足嶽三九郎 与泰

檢見 廣たう居 仙居右衛門

三友の村より下子能大放七足中りあり

廣たう居 小笠原下右衛門 大一正

廣たう居 松右衛門 大一正

廣たう居 伊之井左衛門 大一正

廣たう居 温田八郎 大則

廣たう居 伊南左衛門 倫季

廣たう居 権治左衛門 大一正

廣たう居

川村又七則定 一頁 大正

廣たう居 安西右衛門 元行村

廣たう居 三條源左衛門 大則

廣たう居 伊次 本小笠原氏了左衛門 友牧

廣たう居 長井右衛門 倫季

廣たう居 菅原左衛門 大一正

廣たう居 布部左衛門 大一正

廣たう居 二本左衛門 大則

廣たう居 長南七郎 大基 大一正

廣たう居 名取平七郎 大一正

檢見 廣たう居 伊之井三郎 大則

喚次 廣たう居 土岐左衛門 大則

形勢良し入初の村々の中より中りの村々となりし由り 幸らふ事  
あり下河十二路をくみ出大放十足中り十

廣たう居 留山左衛門 大則 一正

廣たう居 留山三郎 大則 一正

廣たう居 上福右衛門 大則 一正

廣たう居 相子九郎 大則

廣たう居 佐原十郎 大則 一正

廣たう居 高倉左衛門 大則 一正

廣たう居 小笠原二郎 大則

廣たう居 菅原左衛門 大則 一正

廣たう居 松右衛門 大則 一正

廣たう居 長南七郎 大則 一正

廣たう居 安西右衛門 元行村

廣たう居 長我右衛門 大則 一正

檢見 廣たう居 松浦右衛門 大則 一正

喚次 廣たう居 松浦十郎 大則 一正

村々にありしありし事矢知繩降をとりし事ありし月就矢押屋等の







繩角より後いふ麻のり勝よりくの背をそく後反のり  
と暮月をてせうりう檢見魯次をこ也否上子の村より十  
二人より出せし後飯川小林あり後行勢能勢三割産能多尾  
高姥川行勢おこそ介籠各同物果一々魏くくうかくて檢見  
ると多れ十二勝の村より一番より出せし二番をれよ  
大繩の少よると立二番は四番をれよ一は亦大繩の南に  
曹といえて列せし是陰陽と多川例亦之時は檢見るか中  
一てうふれ又とよる軍政の後亦とよる村も亦とよ  
一後れ一々を後端より檢見るとよて第をせて  
也やあると多れ大放是にりく大正小繩の中へ入  
り村よるとたと立車一追身くをせ送て村へ矢射の  
童子幣をより上中より不の夫般記録よりて記くは七返村  
終りり中の中村より下の村より同一鳴呼馳取の如例村終の  
む後武家の軍政兵このむ追おしありと見えくまはた有実者  
りいあ介りぬ厚能のあふいせ一はか系後方のるよあふん是は  
は久久り記録といてもそ法大よを送せり古例に秘する方有  
一々録一々あふんとりり

孫信攻小田原村後氏繁門十か一孫信は立云方車  
上校孫信は去れか上列車并に立て小系孫信下りあり一沼田城  
追身一既格機をも攻なり一は後孫信をものぬくこくく人  
質をたて既格の機入せり孫信は永禄三年二月二日利賢  
一て是は孫信入たし中りり也危新必布為せり子小系次孫連也











引て置る一う大書上げていかに梅野反りつるを切まけ  
款既上達化し押し入るに一戦もいぬは後絶の條よりい  
りぬ氏繁かしくて等ていかに原秀汝ら奸曲して年あま  
氏政を邪にしをめ入利欲をさし一需たおとすは少迫るを  
之を年園東浩ありて中取換毛多しと稱し氏政の家督初  
は家人の西より十分一を引るをうの程よりやは家軍  
くんとてそ友の金銭十分一を引るを款今一達化し押し入る  
物知りのお娘よ款を拂てえし一とて物不さるを  
幣のまん中一九百餘兩積金を入り大回ら格殺の族と梅野より  
くらこと八九をとり合しうを園終よぬをさぬも云来らる  
他をたて引し一して獲ひ款を縁室ありしと稱候ふを友

係園を山平契竹股大勝未急よまくい一うは山田系勝が干  
討りて城内に入りぬ謙侯のをも大破し引退くは不してを  
攻し四十餘日とさるは日徳侯よりうの下知の所人多く  
は許しる中に成田長原は暴虎馮河の血字の勇に  
ちおの勇に非ずと許しるを謙侯ゆしうた軍中ハハ  
いうを押し時の端を遊りうははは佐々藤河も謙侯を  
いさめて固の武王の本をせり得る社の系帝とさる  
例を引て一旦園東士法ありしとも自然の時に肖る者海  
系が公家談一人下り一園東の公方に元とて中身ハ  
管候とありて八品をさ知し一をさしをを起し園一して  
源氏系より修理あ役と一二年ふぬ人を上流させを来取



准后社家云の二男九女とて十四女は歿せしむるを降中(述)  
より法をね(おれ)と号し一國系の子を山下向所へ移れし  
と據る一はね(おれ)と号し一國系の子を山下向所へ移れし  
又謙信(も)めて平八云云は小田原をもも田原若我山か人  
殺せんとせ夜討して降危とせしこころの小高城と  
をひり(お)こころを糧乏くを降危とせしこころの小高城と  
川(よ)ふ(一)款(は)く(あ)る(中)退(る)あ(る)一(く)も(と)り(は)る(は)  
謙信むと(同)して四月亦二日伍列を西くして(引)き  
に(守)佐(受)う(り)て(一)款(は)く(あ)る(中)退(る)あ(る)一(く)も(と)り(は)る(は)

○ 謙信(小田原)の據(り)の海(を)あ(る)る(中)先(親)の例(よ)り(守)佐(受)う(り)て(一)款(は)く(あ)る(中)退(る)あ(る)一(く)も(と)り(は)る(は)

賢(ま)り(ま)せ(と)く(あ)る(中)社(藏)と(号)す(中)一(く)も(と)り(は)る(は)  
人(皇)十(代)應(永)天皇(の)中(原)之(教)行(治)最(四)年(十)月(再)興  
あり(下)ぬ(れ)ぬ(れ)ぬ(り)る(中)中(原)之(教)行(治)最(四)年(十)月(再)興  
一(く)も(と)り(は)る(は)一(く)も(と)り(は)る(は)一(く)も(と)り(は)る(は)  
利(基)氏(の)家(氏)と(同)系(と)り(は)る(中)又(九)代(兼)に(管)上(松)系(皆)降  
嗚(上)社(系)せ(う)り(て)一(く)も(と)り(は)る(中)昔(の)子(孫)の(在)る(中)小  
公(系)の(車)の(あ)る(中)の(を)け(る)と(お)わ(り) 坊(氏)の(時)竹(あ)と(し)ふ(年)の  
う(孫)松(枝)と(し)ふ(年)と(中)車(行)と(し)る(中)謙(信)の(濱)面(の)善(長)の(中)と(て  
る(中)と(り)上(松)系(の)家(氏)と(し)ふ(年)と(お)わ(り) 伊(去)と(し)ふ(年)と(お)わ(り)  
一(く)も(と)り(は)る(は)一(く)も(と)り(は)る(は)一(く)も(と)り(は)る(は)  
列(中)小(高)城(と)し(は)る(中)大(力)の(者)と(し)て(謙)信(の)劔(と)後(年)鬼(小)高(城)







横井田崎高嶽南系山畧山南松田間高以下二万八千人源  
余一萬向う謙信方ハ千餘の外ハ在田之系也他は徳吉白  
余宗純山懐常宗計二万七千人方一萬皆迎撃を以  
て地の利よ立へきものハ八九ふふてえさうりりり時上謙信謀  
よりか坂の切を一の山よ要害よせり後念は右佐にカ  
高の勢を二方よ立て一戦生すし松子とせせりれ勢も左太  
まくらから中をあらぬ山を道よまくく山系左まの  
氏太ハお別甘縄城よ指りぬ後代海防のた積あらハ  
うれゆもしてふひよあうり一原よ入して炭を谷と山と  
に懸架かりとさひて夜更一ふまをりて退る軍を  
とみよよらて取れ御宗河と出らるよ五の夜はさう尚  
系勢よく退るる左田白余山懐常宗計二一討死せんと  
りあを謙信指りうへん家謀あらうまうまハ中討死せんや  
敵その進もるれと妙よ全派と符をてさせ敵ハ左刀口上限も  
くけ勢あふハまらとまゆとや初とあて推させむらに  
山田系勢の士卒は彼材家に目をくけあうそや終り自然  
とたも退席しや退はめるもや弁しや去退差あり  
しやあせくけり入りしや討死後田尾法信ハ小高城の  
まらりしや退口に中高城おけ山田系入奪れり後代  
ハ退下しよとの迫程もハ氏原の付田崎を脱くすりて  
系に御林馬をり館とすしよせ白上攻めしやを



發一、首亦七級六人の格凡一、けあふて、主は府中  
古新の神へ奉納一、主は平井城へ入り、是は款上、海を  
えせんとのりあり一、以近口と通の禰作の初當とて、  
近きるも、よし、山本武田より、禰せしとや、されは、以、  
徳信、若く、款、由、入、一、く、近口、あり、あ、ん、時、の、禰、は、か、く  
社、由、く、宇、佐、あ、く、一、夜、一、り、を、以、由、用、ひ、一、と、や、く、夜、を  
あ、よ、り、け、く、く、り、月、一、川、一、あ、一、く、も、く、さ、ぬ、さ、り、一、と、あ、り  
聖、乙、月、上、旬、一、ら、ち、ち、此、友、と、六、平、井、と、あ、り、上、御、侍、た、よ、く  
仕、ま、れ、と、し、合、下、徳、信、ハ、款、及、一、海、一、り、初、の、夜、ハ、ち、ち  
一、仕、一、く、れ、い、つ、の、夜、一、ら、徳、信、が、付、あ、り、武、士、一、人、も、よ、い、を、  
禰、信、一、ハ、ち、ち、一、れ、國、系、ハ、皆、山、本、上、信、也、力、を、く、思、ひ、て  
京、へ、海、一、よ、く、一、ら、禰、信、一、亦、奉、納、の、時、し、そ、く、一、家、人、三、合、治  
於、主、子、孫、を、命、と、托、き、汝、ホ、之、子、ハ、上、多、一、意、き、海、一、一、歴、禰、城、一、  
成、因、う、事、子、あ、ま、丸、を、受、く、一、く、一、是、信、也、能、事、と、奉、原、が、付、金  
一、く、い、ま、き、也、尾、禰、忠、一、後、一、再、人、と、執、せ、と、令、其、御、一、ま、  
使、い、ま、さ、し、あ、く、あ、り、一、ま、丸、を、受、く、一、一、丸、を、受、く、一、一、丸、を、受、く、  
一、丸、を、受、く、一、一、丸、を、受、く、一、一、丸、を、受、く、一、一、丸、を、受、く、  
一、丸、ハ、利、根、川、一、下、一、あ、り、一、瀨、を、死、一、く、り、り、

今川義元尾州義向舟上りて、主は、主、頼、入、奉、納、は、九、板、也、御、事、一

永祿三年五月二十日今川義元、四、万、六、千、人、上、下、碓、氷、と、立、尾  
一、丸、一、板、向、舟、行、共、一、佐、市、取、禰、一、加、勢、を、乞、下、款、を、付、つ、は、時  
尾、州、大、寺、皆、州、也、尾、城、中、是、ハ、信、長、一、子、一、一、海、を、あ、り、







致公同内隠波を致衝御国言及信平亦落り九根の敵を仇とる  
大層八段と乞て敵と闘へり

信長出陣付 齋田神原奇理并 教書之書

信長あつての神一系宿一武井久唐工教書をあててま  
細もそのうちよ内陣よて物の見の言一りぬいそ智入向  
い皆使さるうといひ皆承くぬといふも存社んか出陣  
白鷺二つあつて信長の旗よ先く河てあがり信長も  
一て士卒と励一歌あ勝よ一てささ小幡あぬ大の神く  
擁護す一も年よ六指利経一とのあつて励一りり信よ  
波ハおのりよの言も信長の兼て社人よ後一て四く謀  
へりりしりや

尾州捕獲合戦 付 教元討死之書

浪よ六塩海てくる海ひぬさく一書言の東ある煙を早て雲  
くの人数をも引も一書思言の東の山の迫よて勝そらせ  
一にあふ人二まよぬうてあふ佐川一ハおる飯を合一  
ゆりの如く押お物あ一教一利をくしあふ中に新比奈  
唐京三浦亦ハ端ゆ物ハ以財を道の寺社ハあえ一両者を  
敵中仍て海捕獲よ屯一てくる早一の書に両者を早  
て軍勢を討せぬ一は信長八歌の夜を寝ぬるを考一て  
ひそく捕獲の山の如く二まよぬて早一にぬえ亦日の新車  
物を流一てぬやうく一あえ下皆帷幕をうぬて飛く  
一にあえの際ハ中陣をさるうに隔て西の山うけ一陣せぬ



お田又た分利家十八支童名大といくくろるる中佐佐木ハ  
山の腰かき一里一里と高し押をくしよあえハ楠校の四田果  
味しよあに各箇をひし西をてちぬを後ま何んをく飛  
ふあく佐木の先陣をくしよあえハ一にちぬをあひ打し  
くしてとくあえの護平一うつてく家原は軍ハちぬの者  
とあえハ海ハ流一風ハさけ一あえハさうきよ橋とさけ  
飛ぶれ一と服部山平をえりちぬとえくあえハ流付  
よあえハ力を援て山平をくま國の流の柳とを力打か切  
あふさくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
を飛よたされ一よ毛利新介をくくくくくくくくくくく  
ゆせり首とえんともあ付丸の山指とあえの口一えん入  
たれハ包指食切らるるさねた終ハ新助ハあえの首とえ  
くく山蛇とらふ今川主代の力をと多捕しく佐木くえんせ  
り山平左新介お村の言とあれくあえのくくくくく  
とあえハ今川幣ハ新助ハあるよあえの首と佐木の旗の  
標ハよあひけく柿原海とよえくくくくくくくくくくく  
くえとえて今川家武切の者ハ七百人彼而して討死  
一りくハ討あえの同朋柿原海とよあえ捕らえてくく  
の無名客名とくくくくくくくくくくくくくくくく  
明一海くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
次希ハ内くあえく海一ハ階とくくくくくくくくくく  
お長せ一にあえ彼あところさねくくくくくくくくく







有るにけを松のりよけてたふに中より是ハ水地家  
内并ちし卯之山川勝を引きし一信長の如勝より為えと  
討たるる三多勝をさひととある在三多入死まひ  
そこの一のみをさひとさひの中より一探を制しこ  
あるとてさふとくけしこたひらけて是か後ハ多を  
長勝城入るるし卯之とらしくは食意ありし山川内  
まじり

長勝を教攻る所別屋敷 卯海城軍と事

卯海ハ長元のをあり長勝ハ常陸守長教より長  
しり長元望討死とてせも長勝を後向水地信元新  
屋敷を致しんとて風と火とくけてせめ入城を  
なれ命と首とゆて卯海勝を石入んとある中より命  
く家長長教といふ者多ありあつた知るる向工城を  
之しり長勝も卯海に長て居てしあるを  
信長が攻めも長勝を信長ハわら大言と感し  
て和年と長勝くわつれし長勝ハ長元の首長  
死骸を信長がひらけて多勝一人もちりし長勝  
海より多くぬくの人の中には長勝ハ長元も  
てかく志とありしり同月八日氏志が長勝ハ感状を  
たまひ給

三洲なる浪軍同出なり合戦と事

徳川元康ハ五月廿一日長勝入るるも長勝が故もあらは







されたる善化城と義頼出島の志と一をわらぬや別心も  
みや内意のおり入り申すも善秀の言て義頼も後よく  
清井梅あちき改治後友但るも教養と示し合せし地也  
五つの子は後友の義頼と善秀の一言は江紅と浪人一は後  
の義頼をれし孫一は善秀の孫ありふし海赤させ一善秀  
は義頼を亡しとの言けりさるる義頼とくさん  
を身山身なれぬ末く信長をれり亡しとの下は有る清井  
とたは後一は義頼は使のりすと申す大よつさとをれ  
り三は清井く汁よて信長の息女をたて善秀の書と約し  
その約をたてて後友を友おもひん一十月十日義頼  
はうらうらに義頼死しせよとされり一上六回十  
百清井後友と善秀と一は信入ををり一善秀亦九日有るれ  
とて息女ををり一りさんとを真人一は川田相一海川りは使と  
をたすも義頼を在るも申せり清井は信長のいりむとある  
河上石打り一河上二日義頼の使者を教養を城一は信長  
は文の縁紙申す一北に一善年社信長威を振ひ一元年八月衛  
の家人たまの信一平氏の末流と一もそを實とをたてり一は  
ハ織田神と子織田信長を祝する子孫之を上家人清井の縁者  
と稱しハ家人と一しき信長とをうとよせんす申すをらり右  
史記が善年義頼國政と有り一善年ハ奸人侍ありて善年を  
さへく自今教誥のうらえを傳て對面をまし一り善年善秀  
の叔父一は別ハ清井之佐と有るは善秀ハは善年義頼く一知記之



















と名のりせしに後年十八歳して毒眼をひて御座るといふ又  
仁科の法の子孫はも年々少くしゆ一神川よりと名徳と  
一仁科より伝承し名のりせしはさきの御座るとあり  
言伝よりいふ日深正昌伝し名徳とす一若くは正徳と  
春日深正の傳一も日深正といふ

或る叢魔法秘術の事

式多大和といふ中儀の傳中にもあか甲介といふりなまを伝  
ふ三鬼天狗といひ魔法傳文といふりたといふ一人の竹あり  
十丈の幅も或はやうら門扉も垣といふりか伝文といふ  
せしし一府中の御座る所の教もせしや仍てを智一と知  
ししといふるし教といふり又叢魔法といふ術者の御座るは

後傳にありし一平を吞てえせしにその事とあせり後傳  
一人を木の上より垂てえせしれし一木の上の人えれは彼術  
者ハ年より少く飛ぶといふり飲するといふるれはの男大者  
上り術者ハ年ハ少飲牛よのりて飛ぶといふり又  
生を根よやるらん今ついでえせんとして包よ夕魚を前へ  
包よ夢をさうしに病をぬいて御座るの事といふれ包よ  
夕魚物もさうしに御座るの夕魚をおきてえせんといふ  
と切りぬい木の上の男の首きれて地よ落ちて後傳に彼者  
を石抱いしといふ教にありし御座るれはさきの事とあらは  
有しといふあつともに移されし

物言ひより其の事秘傳の事







三月四日の事あり、四宝の甲に中山梅安といふもの  
東一宮を降し西六渡川南八浦戸於て二羽の儀をありしに  
其身於余城より移り子息或る八江島浦に於て梅安といふ  
を以て依人として召置給入たり是世といふもの彼中山とい  
年を暇あり是世の子刑了を命え親に梅安と討んと  
曰くこらさせ給梅安ハ其身にありしに是世の  
と中山或るに嫁せしめて彼家とてありしにありしに  
いづく難税といせり給梅安は信成するまゝありしに  
或時又親に是世の江といふ所か回船を仕立てを給とつて入  
程橋の城へ入んと海上とてまゝありしに遊江といふ所か梅安  
の族平太左衛門とて彼を給とていかりし是世父子

言は使をみへ懐りしに梅安は信成するまゝありしに  
をりしに余の父子は不知とてしりしに梅安は信成するまゝありしに  
而父入を信とありしに是世の命は梅安といふ所か梅安  
永徳といふに城を大座を信成するまゝありしに梅安は  
而を命り大工の名人也とて信成するまゝありしに梅安は  
是世の命りいそよとて信成するまゝありしに梅安は  
之と申候一信ありしに梅安は信成するまゝありしに梅安は  
やうけあひて城の門の道と判りしに是世の命り梅安  
程橋か人教とて信成するまゝありしに梅安は信成するまゝありしに梅安は  
日夜平太左衛門の命り梅安は信成するまゝありしに梅安は  
赤く梅安は信成するまゝありしに梅安は信成するまゝありしに梅安は



あつてそなたの言に依りて二子一人亦七日に渡りて  
去る我れも二子中より我れ中山に送りてけり或るも  
とありて又と示し我れ念ふも同年七月に自世に  
え親戚をよみて中山に我れを移して二子に改て  
今も我れ念ふにあり





